

平成27年度学校評価実施報告書

次のとおり学校評価を実施しましたので報告します。

学校目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	学校評価
	具体的な手立て	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		
<p>生徒の自立学習を促し、生徒一人ひとりの学力向上をきめ細かく支える。 (教育課程)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○現状と将来を踏まえ主体的かつ粘り強く自己の向上に取り組む生徒を育ていくカリキュラムの開発</li> <li>○生徒の学習に関する相談に的確に応じる相談・支援体制の確立</li> <li>○生徒の学習達成度や必要とする学力に応じた個別の学習機会の提供</li> <li>○授業と家庭学習を有機的に結びつける学習活動の展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学校設定科目も含め生徒にとってより適したカリキュラムへの改善が行えたか。</li> <li>○授業やHRを通じて積極的な学習相談の機会を設け実施できたか。</li> <li>○補習・補講を充実させ将来に対応できる学力の定着を図る取組を進められたか。</li> <li>○各教科で組織的に家庭学習を充実させる取組がなされたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各教科会においてカリキュラム改善に向けた協議に着手するとともに、学校設定科目については精選と整理が行えた。</li> <li>○定期試験・模擬試験の結果、進路希望調査等のアンケート結果をもとに、担任・教科担当者が恒常的に学習相談に取組んだ。</li> <li>○授業時等で生徒のニーズを把握したうえで長期休業中の講習や放課後等の補習を実施した。特に冬季休業中の開講講座は大幅に増やすことができた。</li> <li>○「学習と生活に関する調査」結果等をもとに家庭学習の重要性を生徒に周知するとともに、5・9月の連休期間、入学者選抜期間に学校として家庭学習課題を出すことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業時間の確保、自然科学コースの発展的解消等の課題を踏まえ、抜本的なカリキュラム改革を進める必要がある。</li> <li>○日常的な機会を捉えた継続的な相談・指導を教科・学年として組織的に進めていく必要がある。</li> <li>○達成度の低い生徒ほど補習・補講に対し意欲的でない傾向があるので、スモールステップで生徒が達成感を得られるような工夫が必要である。</li> <li>○学習に対する生徒のモチベーション向上のため、課題の出し方や内容を工夫するとともに、反転学習を視野に入れた検討を進める必要がある。</li> </ul>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ICTの利活用は授業にどのような変化をもたらしているか。また、今後はICTの利活用をどのように進めていくのか。</li> <li>○生田高生は家庭学習の時間が少ないと思う。もっと宿題等を出してほしい。 (学校評議員)</li> <li>○学校評価アンケートの結果を見ると行事や部活動についての満足度は高いが学習に対してはそれに比べるとやや低い。</li> </ul>	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学力向上については進路状況から見ても一定の成果を上げている。今後は、学習への自主的な取組をさらに促し、自ら学ぶことの楽しさや喜びを経験させたい。 (改善方策等)</li> <li>○学習到達度を上げることが満足度の上昇に繋がると考える。このためには授業時間の確保、教育課程の改編に引き続き取り組む必要がある。</li> </ul>
<p>「自由と規律の精神」に対する生徒の自覚を深めるとともに、それに則った生徒の主体的な活動を推進する。 (生徒指導・支援)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒のマナーや規範意識の主体的な向上に向けた取組の推進</li> <li>○生徒の自律心を育成しTPOに合わせた行動を身につけさせる取組の推進</li> <li>○生徒の自主性や主体性を十分に尊重した学校行事等の企画・運営</li> <li>○部活動等の課外活動に目標を持ち粘り強く取組む姿勢・態度の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○マナーや規範意識について生徒が進んで考える取組や工夫がなされたか。</li> <li>○機会に応じて生徒が自らの行動への振り返りを行い、気づきを促す取組がなされたか。</li> <li>○学校行事等で生徒の自主性や主体性を重視した取組がなされたか。</li> <li>○部活動等の指導で生徒の粘り強い取組を支援する工夫がなされたか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学年集会等の機会を捉え挨拶やマナーの大切さを指導するとともに、生徒会本部役員との座談会を実施し制服や規範意識等について意見交換を行い服装規定等に反映する取組を行った。</li> <li>○儀式的行事において正規の制服着用について呼びかけを行い、生徒もそれを理解し実行することができた。</li> <li>○学校行事等で企画運営を担った生徒に対し積極的な働きかけを行い、生徒も自らの役割を理解し責任をもって主体的に取組ることができた。</li> <li>○学校全体で部活動の加入率90%を保つことができ、各部活動とも生徒の主体性を重視した指導がなされた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○通学マナーについては苦情の有無に関わらず指導を継続に行う必要がある。また授業マナーについては現状を的確に把握し教員間の指導に係る共通理解を図る必要がある。</li> <li>○服装規定の見直し等を通じて「自由と規律」の実践に向けた提言を行っていく必要がある。</li> <li>○社会のリーダーとして活躍できる人材を育成するために、学校行事等を通して生徒のリーダー性を育てる必要がある。</li> <li>○退部率が若干上昇するとともに、初めから部活動に興味を示さない生徒も増えてきているので、そのような生徒に対しどう目を向かせていくか検討する必要がある。</li> </ul>	<p>(保護者)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全国大会に出場する部があるなど部活動も頑張っている。 (学校評議員)</li> <li>○生田高生は校外で見かけてもいつもしっかりとした服装で礼儀正しい。 (その他)</li> <li>○交通マナーや交通規則がよくない場面が見られる。生徒一人ひとりが交通事故の被害者にも加害者にもなっていない。交通安全指導の徹底をお願いしたい。</li> </ul>	<p>(学校評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒は学校行事や部活動に主体的に取り組んでいる。今後も生徒自身が自らの手で学校行事や部活動の企画運営をさせることにより、生徒一人ひとりのキャリア能力の向上に繋がりたい。 (改善方策等)</li> <li>○生徒の社会性を育成するため、主体的に行事に関わるよう指導を行う。</li> <li>○規範意識を醸成する指導は今後も継続する。</li> </ul>

<p>生徒の知的好奇心を高め、自らに相応しい学びのプロセスを理解させることにより、学びの喜びや達成感を実感させる。 〈学習指導・授業改善〉</p>	<p>○討議・発表・論述など生徒中心の能動的な学習活動を多く取入れた授業づくりの推進</p> <p>○外部教育資源の活用も含め、生徒の興味・関心に応じた探究活動や調べ学習の充実</p> <p>○授業における ICT 機器の積極的な利活用の推進と効果的な利活用方法に関する検討</p> <p>○自然科学コースの取組の検証と今後に向けた内容の充実に係る検討</p>	<p>○受動的な学習から能動的な学習に転換させる工夫が科目・単元の中に組織的に取入れられたか。</p> <p>○各教科で組織的に探究活動や調べ学習が取入れられたか。</p> <p>○ICT 機器の効果的な利活用方法を検討し、それにより生徒による授業評価における充実感・達成感を表す指標に伸びが見られたか。</p> <p>○自然科学コースの取組を充実させることができ、今後の展望をまとめることができたか。</p>	<p>○アクティブ・ラーニングに係る校内研修を実施するとともに、教科での組織的な取組を進めた結果、4割程度の教員が何らかの形で協働学習を取入れることができた。</p> <p>○各教科で組織的な調べ学習等の取組を展開した結果、生徒による授業評価アンケートの結果では「授業がわかる」という項目が1学期よりも2学期の方が高い値を示した。</p> <p>○ICT 利活用に関しては、パナソニック教育財団の助成を受け、教員研修では想定以上の内容と機会を設定することができた。また、教科研修会も積極的に行われた。</p> <p>○自然科学コースについては発展的解消が決定されたが、これまでの取組は本校の教育課程上の特色となっている。</p>	<p>○今後も教科をあげた組織的な取組を進めていくとともに、評価方法についても検証を進めていく必要がある。</p> <p>○探究活動等を行ううえで、生徒の積極的参加を促す環境づくりや適切な単元内容の選択について、各教科で組織的な検討を継続する必要がある。</p> <p>○ICT 利活用に係る教員の意識は徐々に高まっているので、実践を積重ねるとともに、その効果を生徒の授業評価をもとに検証していく必要がある。</p> <p>○自然科学コースの廃止に伴いこれまでの取組を教育課程の中でどのように継承していくかについて検討する必要がある。</p>	<p>(保護者)</p> <p>○今の子どもたちは ICT を活用した授業に違和感を持つこともなく、むしろ学習意欲を高めることが期待できる。 (学校評議員)</p> <p>○これからの時代は単に知識を詰め込むだけではだめである。アクティブ・ラーニングなどによってコミュニケーション能力をさらに高めてほしい。</p> <p>(その他)</p> <p>○自然科学コースがなくなることは残念である。これまでの取組や実績を今後活かしてほしい。</p>	<p>(学校評価)</p> <p>○ICT の活用では他校に先駆けていると自負している。今後は ICT を生徒自身に活用させることにより、一方向の伝達型授業ではなく、生徒が自分で学んでいく授業を実践していきたい。 (改善方策等)</p> <p>○授業改善に終わりはない。互いの授業見学や研修を実施し、生徒が主体的に学習する指導を研究していく。</p> <p>○自然科学コースの特色ある科目や行事は何らかの形で存続させると考えている。</p>
<p>生徒の進路選択や自己実現に向けた粘り強い取組を積極的に支援する。 〈キャリア教育〉</p>	<p>○外部資源を活用した将来に対する生徒の目的意識の涵養を目指した取組の推進</p> <p>○「行きたい学校」を自己選択できる生徒の育成に向けた支援・指導体制の確立</p> <p>○生徒・保護者のニーズに合わせた情報発信、情報提供の充実</p>	<p>○個別指導や全体指導、外部資源の活用を通じて自己理解を深める取組を進めることができたか。</p> <p>○進路を主体的に考えさせ、それを実現するための支援・指導の充実を図ることができたか。</p> <p>○生徒・保護者への情報発信、情報提供に工夫ある取組が行えたか。</p>	<p>○全体ガイダンスや個別指導において、積極的に外部資源を活用することができた。特に高大連携を積極的に進め、昨年より受講者数・学外単位認定者数を大幅に増やすことができた。</p> <p>○今年度、新たに11月に希望者対象の外部模試を校内実施するなど、生徒が自己の学力を把握し進路目標を具体化できる機会をふやした。</p> <p>○進路支援グループと各学年が連携し進路説明会や学年懇談会、三者面談等を実施し、保護者も含めニーズに合わせた情報提供が行えた。特に夏季休業中において全学年、ほぼ全員の個別面談が実施できた。</p>	<p>○現在、外部資源を活用した多くの調査やアンケートを実施しているが、その有効な活用方法について関係部署が連携して検討していく必要がある。</p> <p>○「総合的な学習の時間」をキャリア教育において有効活用するため、LHR との兼合いを考慮し時間割上の位置づけや3年間の展望に立った体系的な指導計画について再検討を行う必要がある。</p> <p>○生徒、保護者に対するガイダンスについては、そのニーズに合わせて内容および実施時期等に検討を加える必要がある。</p>	<p>(保護者)</p> <p>○進路情報がなかなか保護者に伝わってこない。保護者対象の進路ガイダンスはたいへん良かった。今後も続けてもらいたい。</p> <p>○部活動と学習の両立が図られている点がすばらしい。 (学校評議員)</p> <p>○単なる進学指導ではなく、将来の職業観も育むキャリア教育を実践してほしい。 (その他)</p>	<p>(学校評価)</p> <p>○近年、進路実績は向上している。本校の進路指導のキャッチフレーズである[「いける大学」ではなく、「いきたい大学」に行こう]の実現に向けて、入学後できるだけ、早い時期から自分の将来を考えさせ、自己理解を促す機会を提供したい。 (改善方策等)</p> <p>○外部資源を活用し、個々の適性を把握させ将来を考えさせる指導を行っていく。</p> <p>○有益な情報を迅速に発信していく。</p>

<p>学校と地域との間の絆づくりを通じて、生徒・保護者・教職員・地域が互いに協力して行う行事の推進</p> <p>生徒・保護者・地域のニーズに応える積極的な情報発信の推進</p> <p>地域の活動への生徒の積極的な参加の促進</p>	<p>○生徒・保護者・教職員・地域が互いに協力して行う行事の推進</p> <p>○生徒・保護者・地域のニーズに応える積極的な情報発信の推進</p> <p>○地域の活動への生徒の積極的な参加の促進</p>	<p>○地域との連携において新たなものが加わったり、既存の活動を充実させたりすることができたか。</p> <p>○生徒・保護者・地域のニーズを把握し必要とされる情報が必要ときに発信されたか。</p> <p>○生徒に対する積極的な広報が行われ参加が促進されたか。</p>	<p>○地域音楽祭・地域清掃活動、及びPTAボランティア活動（aiプロジェクト）等、既存の活動については、地域関係者や保護者からの要請に応えるとともに、双方向の連携活動として定着させることができた。</p> <p>○担当グループにより学校ホームページの効率的な更新が行えるよう校内体制を整えることができた。</p> <p>○地域で行われた防災訓練に生徒会本部役員と教員が初めて参加した。</p>	<p>○既存の活動を充実させるとともに、何らかの新企画を取入れていく必要がある。特に、PTAボランティア活動を核とした地域連携について検討する。</p> <p>○より効率的で迅速な運用を行うため校内体制の改善に努める必要がある。特に、部活動関係の迅速な情報提供、古くなった情報の迅速な削除は重点的に取組む。</p> <p>○地域の中の学校であるという意識を生徒に周知させるとともに、ボランティア活動等を生徒に紹介する方策を工夫する必要がある。</p>	<p>(保護者) ○PTAの大会に参加するなど活発に活動した1年であった。 (学校評議員) ○ホームページがなかなか更新されない。リアルタイムで学校の様子が伝えられるように、きめ細かな更新をお願いしたい。 (その他) ○地域の防災訓練に生徒が参加してくれて良かった。</p>	<p>(学校評価) ○PTAと連携し地域活動や大会参加など活発に活動できた。</p> <p>(改善方策等) ○地域との連携は重要である。防災訓練だけではなく積極的に地域に貢献していく。 ○情報の発信については課題を残した。次年度改めたい。</p>
<p>事故不祥事の未然防止を含め、安全・安心な学校づくりをハード・ソフトの両面から推進するとともに、将来を見据えた学校づくりを考える。 (学校運営・学校管理)</p>	<p>○保護者・地域と連携した安全で安心な学校づくりの推進</p> <p>○「いのちの大切さ」について生徒が主体的に考えていく取組の推進</p> <p>○環境問題や環境美化に対する生徒の自主的、日常的な取組の推進</p> <p>○課題を抱えた生徒に対する組織的な支援の充実</p> <p>○生田高校未来構想会議を中心とした今後の本校のあり方の検討</p>	<p>○保護者・近隣の学校・地域関係機関と協力して交通安全に対する取組を充実させることができたか。</p> <p>○「いのちの大切さ」について、それを伝え生徒自らが考える機会を与える取組ができたか。</p> <p>○ゴミ分別や節電などに対し生徒の主体的な取組を促す指導と工夫が行えたか。</p> <p>○学年団を中心とした教育相談体制が確立でき、情報の共有化等効果的に機能したか。</p> <p>○今後の本校のあり方や育てたい生徒像に係る具体的な提言が行えたか。</p>	<p>○今年度の自転車事故報告は10件であり減少傾向にある。また、文化祭では新しい自転車のルールについてPTAの協力を得て展示を行った。</p> <p>○生徒、教員に対し「いのちの大切さ」を考える外部講師による講演会を実施した。またいじめアンケートにより生徒の実態把握を確実に行った。</p> <p>○文化祭において生徒、教員が協力し学校を挙げてのゴミ分別に取組むことができた。</p> <p>○ケース会議の体制見直しを行い、関係者間の情報共有や迅速かつ効果的な支援が行えるようになった。</p> <p>○生田高校未来構想会議の位置づけについて職員間で確認することができ、年間行事の見直しに係る会議からの提言が行われた。</p>	<p>○自転車に関する新しい交通法規をさらに生徒に周知させていく必要がある。</p> <p>○「いのちの大切さ」を生徒に考えさせる機会を捉えた指導を続ける。特に、ICT関係では、本校独自のソーシャルメディアポリシーを策定し情報モラル教育を充実させるとともに、保護者の理解を求める必要がある。</p> <p>○冷暖房の使用、空き教室の消灯等、節電に対する生徒の意識向上に工夫ある取組の必要がある。</p> <p>○ケース会議の充実に努めるとともに、多様化した生徒の課題に対応するため、教員間・学校と家庭、生徒との機会を捉えたコミュニケーションを重視していく必要がある。</p> <p>○高校教育改革の実施に向けて、中長期的な展望を見据えた積極的な提言を行っていく必要がある。</p>	<p>(保護者) ○生田高校ではいじめはないと聞いている。生徒の人権意識の高さが窺える。 (学校評議員) ○交通安全指導の取組は非常に良い。 (その他) ○最近自転車の乗車のマナーは良くなっている。</p>	<p>(学校評価) ○交通事故は大事には至っていないが年間数件起きている。 ○ゴミの分別から節電まで身近なことから環境問題を考えさせた。 ○SNSの正しい使い方をしっかりと身につけさせたい。 (改善方策等) ○ソーシャルメディアポリシーを策定し情報モラル教育を充実させる ○交通安全指導は今後も重点的に行っていくとともに、万が一事故に遭ってしまったときの行動なども指導を行う。</p>